

檀原いろはかるた

頭文字	詠	絵	絵の詳細	場所／年	解説
い	いくたり おも まじ ふだ つじ 幾人の 思い交えり 札の辻	札の辻	札の辻	八木町	札の辻は、古代の重要な幹線道路であった、東西道の「横大路」と南北道の「下ツ道」の交差地です。街道町、宿場町、市場町として旅人や町人で賑わいながら、政治、軍事、経済、商業の重要地であるがゆえに、その所領をめぐって戦乱に巻き込まれることもありました。札の辻の地名は、江戸時代に定書や法度などを庶民に知らせるための高札場があったことに由来しています。
ろ	よ ふじわらきゅう あと た ロマン呼ぶ 藤原宮の 跡に立ち	藤原宮	藤原宮	694年～710年	持統、文武、元明の、3代16年間の首都。大和三山に囲まれてつくられた日本最初の本格的な都で、藤原京の中心に位置して天皇の住まいと朝廷が設けられました。1996年には、これまでに定義されていた藤原京の京域の外に西京極の道路遺構が出土し、約6.7平方キロとされていた藤原京の規模が約23平方キロに広がり、「大藤原京」などと呼ばれるようになりました。国指定特別史跡。
は	ぼんにん じゅういちめんかんのん じひ あた 万人に 十一面観音 慈悲与う	十一面観音	木造十一面観音立像	八木町/国分寺	八木町の国分寺に、平安時代中期の作品とされる十一面観音立像があります。櫺による一木造りで、鋭い刀法による衣のひだの表現に平安期の特徴的な技法である「翻波式衣文」がうかがわれます。古来より、観音様は苦悩にある人々を大慈大悲で救世する菩薩と言われており、十一面観音は種々なる十一の権化でこの世を説いています。国指定重要文化財。
に	にぎ ばやし さと ゆ 賑やかし だんじり囃子が 里を行き	だんじり	だんじり	十市町・今井町・小綱町	豊作と家内安全を祈願して江戸時代中期より始まった檀原のだんじり曳行は、毎年10月の秋祭りに行われています。賑やかなほど氏神様が喜ぶということで、だんじりを松明や提灯で美しく飾り付けながら、威勢の良い太鼓と鐘に合わせて町中曳き回します。市内では、江戸時代末期から明治にかけて製作されただんじりが保存されています。
ほ	ぼ あまた にいざわせんづか こふんぐん 墓は数多 新沢千塚 古墳群	新沢千塚古墳群	新沢千塚古墳群	川西町・鳥屋町	こんもりとした小山状の古墳が幾つも連なる古墳群。多くは直径10～30mほどの円墳で、その数は数百におよびます。造られた年代は4世紀後半から6世紀にかけてと推定され、これまでも数多の出土品が発見されました。特に126号墳からは金製品やガラス器など豪華絢爛の品が出土し、発見当時は地下の正倉院と騒がれたほどでした。国指定史跡。
へ	へいあん いぎょうつた ますだ いけ 平安の 偉業伝えし 益田池	益田池	益田池	白檀町	平安時代初期、近畿地方を襲った大干ばつの際に造られた巨大な灌漑用の池。付近に点在する丘の間に包みを築き、高取川をせき止めて池にしたと見られています。満水時の貯水量が約140万トン～約180万トンと推定され、この量からもかなりの大事業だったことが分かります。高取川の改修工事のときには、池の水量調整に使われていたと思われる巨大な木の管も発見されました。

檀原いろはかるた

頭文字	詠	絵	絵の詳細	場所／年	解説
と	とりどりの <small>うつく ちょうま こんちゅうかん</small> 美しき蝶舞う 昆虫館	昆虫館	檀原市昆虫館	南山町	亜熱帯植物が繁る中を優雅に蝶が舞う広大な放蝶温室をはじめ、地球上のあらゆる昆虫を紹介する標本展示室、また、再現された自然環境の中で昆虫の生態が観察できる生態展示室などが整っています。驚きと発見の楽しい夢空間は、子どもたちにも大人気。巨大な昆虫が羽を広げたような外観も、とてもユニークです。
ち	ち <small>うめかわ ちゅうべえ こい い</small> 散りてなお 梅川・忠兵衛 恋に生き	梅川・忠兵衛	梅川・忠兵衛墓	新口町	新口村に生まれ、大阪淡路町の飛脚屋の養子になった忠兵衛が遊女の梅川と恋に落ち、梅川に身請けのために為替金を使い込んでしまいます。その罪を問われ処刑された実話を、近松門左衛門が『冥途の飛脚』として作品に。1711年の初演以来、その悲恋は今日まで幾度となく舞台化されています。忠兵衛が生まれた新口町にある善福寺に、忠兵衛と梅川の墓があります。
り	りょうさい <small>やまと ずいいち たにさんざん</small> 良才は 大和随一 谷三山	谷 三山	谷 三山	1802年～1867年	幕末の学者として知られる谷三山は、檀原の八木に合った米屋「倉橋屋」に生まれました。11才のときに耳を患い音の世界を失いましたが、奮起して学問の道を志し、京都の猪飼敬所に学び名声を博しました。後、家塾「興讓館」を開いて子弟の教育にもあたり、その功績により、名字帯刀を許されました。晩年には眼の病により失明しましたが、66歳で没するまで学問に対する志はいささかも衰えませんでした。
ぬ	ぬかあめ <small>そ あじさい くめ であ</small> 糠雨に 染まる紫陽花 久米寺や	久米寺	久米寺	久米町	木立に包まれて経つ金堂、観音堂、多宝塔などが、古寺らしい雰囲気醸し出している久米寺。聖徳太子の弟、来目皇子の創建と伝わり、国の重要文化財に指定されている多宝塔は万治2年(1659)、京都の仁和寺から移建したものです。夏には青やピンク、白の紫陽花が境内を彩り、花の寺としても親しまれています。
る	るいまれ <small>おおえま まえ はるいわ</small> 類希な 大絵馬前に 春祝う	大絵馬	大絵馬	久米町/檀原神宮内	檀原神宮には、高さ4.5m、幅5.4m、畳にすれば約14畳ほどの大きな絵馬があります。この大絵馬には干支が描かれており、毎年11月30日に翌年の絵馬への掛け替えが行われています。掛け替えからお正月中頃までは外拝殿に、それ以降は絵馬殿で見ることができ、初詣の際には大絵馬の前で記念撮影する家族連れの様子が檀原の風物になっています。
を	おかしみの <small>じんじゃ かた ぐさ</small> すがる神社の 語り種	すがる神社	すがる神社	飯高町	祭神は、小子部すがる。あるとき、雄略天皇が養蚕奨励のために「良い蚕を集めよ」とすがるに命じたところ、すがるは何を思ったか「良い児」を集めてきてしまいました。この勘違いに天皇はおかしみ、すがるに姓を与えて幼児の教育にあたらせたそうです。そんな楽しい逸話を持つすがる神社は、育児の神として人々の信仰を集めています。

檀原いろはかるた

頭文字	詠	絵	絵の詳細	場所/年	解説
わ	わこ 吾子はしゃぎ まつり スミツケ祭で やくばら 厄払い	スミツケ祭	スミツケ祭	地黄町	江戸時代から続く、無病息災を願う子どもたちの伝統行事。毎年5月4日、夕方6時の鐘を合図にパンツ1枚になった子どもたちが家から飛び出し、年長の子どもが小さい子どもを追いかけてススを塗りつけます。このあと風呂に入ってきれいになった子どもたちは、ワラの蛇を作り、翌朝、人麿神社に供えてその年の健康と豊作を祈ります。県指定無形文化財。
か	かわら 瓦にも わざ 技の華あり はな 瑞花院 ずいけいん	瑞花院	瑞花院	飯高町	正しくは裕禅寺瑞花院吉楽寺といい、室町時代の創建と伝わります。本堂の造りの見事さもさることながら、屋根瓦には名匠の呼び声高き瓦大工、橘吉重の刻印があります。橘吉重は瓦の制作にあたりさまざまな新技法を誕生させながら、法隆寺、唐招提寺、霊山寺、薬師寺などの瓦にその名を残していきます。国指定重要文化財。
よ	よ 世に響く ひび 今井兵部が いまいひょうぶ まち 町ひらく	今井兵部	今井兵部	生没不詳	一向宗本願寺の僧侶で、天文年間(1532~1555)に檀原に称念寺を建立し、現今井町の礎を築きました。織田信長の一向宗弾圧が強まる中、町の周囲に堀を作り土塁をかため寺内町としてこれに対抗。武装宗教都市としての体制を整えました。徳川の世には家康から優遇され、惣年寄として司法権、警察権などを持ち、私札(今井札)の発行で町の商業を盛んにしました。
た	たくみ 巧の技 ぎ みずさしがた 水差形の どき 土器に見る み	水差型の土器	台付水差形土器	奈良県立檀原考古学研究所附属博物館	市内では、河川流域の肥沃地を中心に、弥生時代の遺跡が数か所にわたって確認されています。そんな中で一町遺跡で発見された弥生時代中期の『台付水差形土器』は、高さ約22cm、容量1.5ℓ。表面には列点、簾状、波状の美しい模様が見られ、脚部には等間隔に木葉文の透かしの技巧が施された、美術的にも大変優れた作品です。国指定重要文化財。
れ	れんじょう 恋情を うた 詠う人麿 ひとまる かる 軽の里 さと	軽の里	軽の里	大軽町	軽の里は、今の軽町にあたります。柿本人麿が軽の里に住んでいた最愛の妻の死を嘆き悲しみ、この町を詠った多くの挽歌を万葉集に残しています。そのほか、古くは応神天皇の宮室があったとも伝えられ、天武天皇の時代には『軽の市』と呼ばれる大きな市ができました。町の中には、飛鳥時代の創建と出土瓦から考えられる軽寺もありました。
そ	そらこ 空焦がす なつ 夏の火祭 ひまつり ほうらんや	ほうらんや	ほうらんや	東坊城町/春日神社・八幡神社	ほうらんやは、春日神社と八幡神社で毎年8月15日に行われる火祭です。氏子が燃える松明を担いで回る賑やかな祭りで、その装束は、たすきも尻はしよりもしない浴衣の着流し姿。祭りの名前にもなっている「ほうらんや」とは、松明を担ぎ回るときの掛け声だと言われています。県指定無形文化財。
つ	つまやかし ひとまるじんじゃ 人麿神社に うた 歌を詠み よ	人麿神社	人麿神社	地黄町	宮廷歌人、吟遊詩人、挽歌詩人などと呼ばれ、山部赤人とともに歌聖と称される柿本人麿が祭神。新庄町にある柿本神社より分霊されたと伝わります。小さなお社ですが、一間社隅木入春日造は珍しく、南北朝時代の特徴をよくあらわす貴重なものです。国指定重要文化財。

檀原いろはかるた

頭文字	詠	絵	絵の詳細	場所／年	解説
ね	ねが こ お願い込め あたごまつり 愛宕祭で かなん よ 火難除け	愛宕祭	愛宕祭	八木町	「お伊勢に七度 熊野へ三度 愛宕さんへは月参り」と古歌で歌われている京都の愛宕神社を勧請し、町の火災予防を祈願して始まった愛宕祭。歴史は非常に古く、八木のほとんどの町内で各々に祠をまつり、「立山」をつくってその出来栄を競っていました。明治時代にもっとも盛んに行われ、現在も8月23日から3日間、八木の町には所々に祠がまつられ、檀原の夏祭りの最後を飾っています。
な	なんびと 何人ぞ まるやまこふん 丸山古墳に ねむ かた 眠る方	丸山古墳	丸山古墳	大軽町・五条野町	全長約320m、後円部径約150m、前方部幅約210mの、県下最大の前方後円墳。石室は億壁が幅広くなる羽子板状となっていますが、土の流入が激しいため、その規模は全長約28m以上との推定にとどまっています。造られた年代は6世紀後半。被葬者は古墳の規模から欽明天皇説が有力視されています。国指定史跡。
ら	らんまん 爛漫の はな まんだら 花曼荼羅や かんのんじ 観音寺	観音寺	観音寺	小房町	通称おふさ観音とも呼ばれる観音寺は弘法大使を宗祖とする高野山真言宗の寺で、寺伝に空海作とある十一面観音が祀られています。境内には手入れの行き届いた草花が咲き誇り、満開の花で仏様の世界を映す「花まんだらの寺」、また寺内に最も多い花の品種から「イングリッシュローズの寺」とも呼ばれ、訪れる人を四季折々の花で楽しませています。
む	むすめみ 娘見て あま こぼ 天から零れし くめ せんじん 久米仙人	久米仙人	久米仙人		修行を重ね仙人になったクメが、吉野川で洗濯する娘の白い腿に見とれた邪心により天から落ちてしまいます。クメは下界に降り、一人の青年としてその娘と幸せに暮らしていましたが、仙術の復活を考え、またも修行を始めます。結果、クメの仙術は蘇り、術を天皇のために役立てたことで田三十町を賜り、そこに寺を建立。その寺が、檀原市の久米寺だという伝説が残っています。
う	うつく 美しき おおきみうつ 王映す うねびやま 畝傍山	畝傍山	畝傍山	畝傍町・大久保町・大谷町・山本町など	標高約199m。大和三山の一つで、藤原京の西に位置します。古くから、畝傍山に美しい女性の姿を重ね、天香久山と耳成山を男性に見立て、恋争いの歌が詠まれています。中大兄皇子(後の天智天皇)もこの畝傍山に額田王を映しながら、実弟である大海人皇子(後の天武天皇)との恋争いの歌を残しています。
ゐ	いにしえ 古の すざく おおじ 朱雀大路は にぎ 賑わいて	朱雀大路	朱雀大路跡	上飛驒町	藤原京は道路によって碁盤の目のように区画整理された、美しい町割りを見せていました。南北の道路を条、東西の道路を坊と呼び、そのメインストリートは、藤原京の南正門である朱雀門から南に向かって延びる朱雀大路。道幅は17.7mで、その両側には幅7.1mの側溝がありました。国指定史跡。

檀原いろはかるた

頭文字	詠	絵	絵の詳細	場所／年	解説
の	のこ なぞ ますだ いわふね なにいし 残る謎 益田岩船 何石ぞ	益田岩船	益田岩船	白檀町	高さ約5m、東西約11m、南北約8mにもおよぶ花崗岩の巨石。上面には方形の穴が2つあります。この大岩には、益田池の碑の台座や天体観測の道具、祭壇、あるいは横口式石櫛などと諸説がありますが、決定的なものではなく、今もって謎のまま。明日村の酒船石や亀石とともに、あれこれと思いを馳せられる不思議な岩の一つです。県指定史跡。
お	おも な じとうてんのう なつうた 思い成し 持統天皇 夏詠う	持統天皇	持統天皇	645年～702年	天智天皇の第二皇女で、13歳のときに大海人皇子(後の天武天皇)に嫁しました。病がちの夫を補佐しながら乱戦をくぐり抜け、夫を、孫をと、次々に天皇の座へと導きます。自らも第41代の天皇に即位し、藤原京遷都を実現。すべてが思い通りとなりゆく満ち足りた気持ちで、「春過ぎて 夏来るらし 白栲の 衣干したり 天の香久山」と格調高い歌を藤原京から詠んでいます。
く	くにみ ち あまのかぐやま かみやど 国見の地 天香久山 神宿り	天香久山	天香久山	南浦町	標高約152m。大和三山の一つで、藤原京の東に位置します。古に天から降ってきたので名称に「天」がついたと伝えられるほか、古事記や日本書紀の神話にも登場。万葉人はこの山を、神聖なる地ととらえていたようです。また、天皇が国見をした山としても万葉集に詠まれています。天皇の国見は、高所から見た国土を賛美することで豊穡と繁栄を予祝する、儀礼的な行事でした。
や	やまとこく はつ ほうてん たいほうりつりょう 日本国 初の法典 大宝律令	大宝律令	大宝律令		文武天皇の命により、刑部親王、藤原不比等、粟田真人ほか18人が編纂に努めていた法典が、約19年の歳月をかけて大宝元年(701)に完成。ここに、わが国初の本格的な法典『大宝律令』が誕生します。今の刑法にあたる『律』が約500条6巻。行政法などにあたる『令』が約1000条11巻。すぐさま施行され、新しい機能で国が動き始めました。
ま	まちな あゆ かた はないらか 町並みの 歩みを語る 華蓼	華蓼	今井まちなみ交流センター「華蓼」	今井町	重要伝統的建造物群保存地区に指定されている今井町の歴史を、詳しく、そしてわかりやすく解説した資料を一堂に集めた。今井まちなみ交流センター「華蓼」。この建物は旧高市郡教育博物館で、奈良県下初の社会教育施設として明治36年(1903)に建築。昭和初年より約30年間は、今井町役場として使用されていました。県下で数少ない、明治建築の遺構です。
け	けいじょう みみなしやま めど 京城は 耳成山を 目処にして	耳成山	耳成山	木原町	標高約139m。大和三山の一つで、藤原京の北に位置します。この山の真南に藤原京、そして真北に平城京があり、古代の都づくりにおいて基準となる存在であったことがうかがえます。
ふ	ぶんかてん のぶながこう ゆかり 文華殿 信長公に 縁あり	文華殿	檀原神宮文華殿	久米寺/檀原神宮内	檀原神宮の社務所東にある文華殿は、柳本織田藩邸の一部を移築したものです。柳本織田藩は、かの戦国武将織田信長の弟である織田有楽斎長益の五男、尚長が、有楽斎の領地から分知いた1万石で大和柳本(現天理市柳本町)に興した藩です。文華殿として現存する部分は天保15年(1844)の建物で、藩邸の表向きの書院と玄関にあたります。国指定重要文化財。

檀原いろはかるた

頭文字	詠	絵	絵の詳細	場所／年	解説
こ	こんじき <small>かがや</small> 輝くトビが <small>か</small> 勝ちを呼び	トビ	トビ		記紀によると、大八州平定に向けて長髓彦との激戦が続いていた神日本磐余彦は、これからの戦略に思い悩んでいました。そのとき急に空が暗くなり、どこからか飛んできたトビが神日本磐余彦の弓に留まり金色の光を放ちます。その光に敵陣がひるみ、神日本磐余彦は見事勝利。これが、神日本磐余彦が神武天皇として即位する足がかりとなったと伝えられています。
え	えいえい <small>えどき</small> 江戸期を残す <small>のこ</small> 今井町	今井町	今井町	今井町	中世の環濠集落を礎に町割りを築いた今井町は、寺内町として発展しました。江戸期には、「大和の金は今井に七分」と謳われるほど繁栄。今も江戸時代の面影映る風情ある町並みを残しており、慶安3年(1650)建築の今西家住宅をはじめ優れた町家が数多く建ち並んでいます。平成5年に、重要伝統建造物群保存地区に選定されました。
て	でんしょう <small>たぬき</small> 狸の民話に <small>みんわ</small> ほのぼのと	狸の民話	『狸の恩返し』	曾我町	昔々、曾我の里に北林という家がありました。主は家にこっそりやって来る狸たちのために、わざと食べ物を置き忘れたふりをしてお腹を満たしてやっていました。ある晩、家に泥棒が入ったときのこと、二人の力士がやってきて北林の家を守ります。その夜、主の夢に狸が現れ、「力士は私たちが化けたもの。いつも食べ物をご用意くださるお礼です」と言いました。以来、北林の家の人は、狸を命の恩人として、いっそうかわいがりました。
あ	あそ <small>き</small> 遊び来て <small>たの</small> 楽しむ学ぶ <small>まな</small> 科学館	科学館	檀原市立こども科学館	小房町	かしはら万葉ホール <sup>の</sup> 地下1階にある檀原市立こども科学館は、科学の基礎を見て、聞いて、触って、動かしてと、五感で学べる施設です。ニュートン広場を中心に、「力」「熱」「電気と磁石」「光と音」「太陽系宇宙と地球」「くらしの環境」の6つのゾーンを設けながら、パソコンランドや実験工房、ハイビジョンルームを併設。こどもたちが、楽しく遊びながら科学と親しめる空間です。
さ	さ <small>ひ</small> 去りし日を <small>もと</small> 本薬師寺の <small>やくしじ</small> 礎石に見 <small>そせき</small> <small>み</small>	本薬師寺	本薬師寺跡	城殿町	天武天皇が皇后(後の持統天皇)の病氣治癒を祈願して創建に着手しましたが、完成を待たずに崩御。その後、持統天皇が完成させた寺です。当時は飛鳥大寺の一つに数えられていましたが、平城遷都とともに寺も西の京に移されています。西の京の薬師寺に対し、今ではその跡を本薬師寺と呼んでいます。国指定特別史跡。
き	きゅうりょう <small>なら</small> 丘陵に <small>せきしつ</small> 並ぶ石室 <small>うえやまこふん</small> 植山古墳	植山古墳	植山古墳	五条野町	6世紀後半から7世紀頃にかけて築造されたと考えられる植山古墳は、一つの墳丘に二つの横穴式石室が並ぶ双室墳です。東側の石室が竹田皇子、西側の石室が、磯長山田陵(大阪府太子町)を築くまでの推古天皇の仮陵ではないかという説があります。明治から昭和にかけて檀原神宮整備にともない、多くの石室の石材が持ち出されたため天井石を失いましたが、石室は、ほぼ原形をとどめています。

檀原いろはかるた

頭文字	詠	絵	絵の詳細	場所／年	解説
ゆ	ゆうだい かしはらじんぐう ごしょ かし 雄大な 檀原神宮 御所の下賜	檀原神宮	檀原神宮	久米町	神武天皇が即位した檀原宮跡と伝わる場所を大切に保存していこうと、有志らの署名によって明治23年に創建。その神域は53万平方メートル(16万坪)と広大です。社殿造営の際には、京都御所にあった安政2年建立の内侍所が明治天皇より下賜され、神宮の本殿とされました。国指定重要文化財。
め	めたちどき まんよう もり そうそう 芽立時 万葉の森 蒼々と	万葉の森	万葉の森	南浦町	天香久山の麓に位置する万葉の森は、昭和47年に整備された県の森林公園です。公園内にある樹木は約180種。それぞれに木の名前と説明文が添えられたプレートが取り付けられており、万葉集に詠まれた数種の樹木が歌碑とともに並んでいます。万葉の森の自然環境を題材に、皆さんも素敵な歌を詠んでみてはいかがでしょうか。
み	みずぬる さくら あすかがわ 水温み やがて桜の 飛鳥川	飛鳥川	飛鳥川		飛鳥川は、万葉集の中で最も多く詠まれている川です。その右岸に築かれた藤原京をはじめ、川の流れてそって数々の史跡を点在していることから、古代人にとって暮らしの動脈であり、心安らぐ母なる川であったことが察せられます。春ともなれば飛鳥川沿いにはたくさんの桜が開き、絶えることのないせせらぎとともに美しい風情を見せています。
し	しんぶんか まんよう そうぞう 新文化 万葉ホールで 創造し	万葉ホール	かしはら万葉ホール	小房町	かしはら万葉ホールは、誰もが気軽に文化に親しめ、また新しい文化の創造に参加できるようにと計画された施設です。地下1階にはこども科学館、1・2階には約850席のロマンピアホールと図書館があり、そのか展示ギャラリーや社会福祉ゾーンなどを備えて多様な生涯学習と文化発信に取り組んでいます。
ゑ	えど しょき やつむねづくり いまにしけ 江戸初期の 八棟造 今西家	今西家	今西家	今井町	今西家は1566年に今井町に移り住み、惣年寄を代々勤めた家筋です。現存する家屋は江戸時代初期の慶安3年(1650)のもので、本瓦葺に白漆喰の構えは豪壮。また、本瓦葺の屋根は、城郭を思わせるほど複雑で美しく、八棟造とも言われています。重要文化財。
ひ	ひむか じんむてんのう どうせい 日向より 神武天皇 東征へ	神武天皇	神武天皇		記紀によると、神武天皇は、天上の国を支配する天照大御神の孫である瓊瓊杵尊の曾孫、神日本磐余彦とされています。日向国高千穂宮(宮崎県)に暮らしていましたが、天地平定に向け九州から瀬戸内にかけて戦闘を続けて進み、ようやく大和を平定。辛酉の年(前660)、今の和歌山の畝傍檀原宮(宮跡は現檀原神宮)で初代天皇として即位したと伝えられています。
も	もっかん うつ いにしえは おも 木簡に 映る古 馳す想い	木簡	木簡		2001年6月、藤原宮跡から約1200点の木簡が発見されました。701年～702年の日付のものが多く、木簡自体の残り具合や墨の跡も良好。そこには、物品搬出の届け出や、労働現場での勤務の様子、また古今和歌集にも出てくる和歌の書き取りなどが鮮明に残っていました。大宝律令による行政システムが実際に機能していたことがよくわかる、たいへん貴重な出土品でした。

檀原いろはかるた

頭文字	詠	絵	絵の詳細	場所／年	解説
せ	せっぱく 雪白の くちなし匂う 涼の風 <small>にお りょう かぜ</small>	くちなし	くちなし		昭和52年7月1日、檀原市は、市の花を「くちなし」に制定しました。くちなしは初夏に開花する純白で清浄な花で、古代、耳成山に群生していたと伝えられています。また、学名の「ガーデニア・ジャスミノイデス」から分かるように、ジャスミンに似た良い香を持ち、夜露の降りる時間にはさらにその香が高くなります。
す	ずし ひら だいにちによらい おが なつ 厨子開き 大日如来 拝む夏	大日如来	木造大日如来坐像	小綱町/正連寺	正連寺の大日堂に、木造大日如来坐像があります。鎌倉時代初期の作品で、檜の寄木造。いつもは堂の内陣に設けた厨子の中に安置されていますが、毎年、大日さんを供養する夏祭りが行われる7月15日、年に1度の開扉が行われます。国指定重要文化財。
檀	かしはら まんようかお こきょう ち 檀原は 万葉薫る 古京の地	檀原	檀原市		奈良県の、ほぼ中央に位置する檀原市。万葉の時代を偲ばせる大和三山が美しい風光を見せる中に、その昔、わが国初の首都である藤原京がありました。市域には歴史的文化遺産や日本建国神話が数多く残り、古代史ファンのみならず、訪れる人を幻想の世界へと誘います。

※かるたの内容は発行された平成13年（2001）時点のものになります。